



横環管第 49 号

平成 30 年 (2018 年) 6 月 13 日

神奈川県知事 黒岩 祐治 様

横須賀市長 上地 克明



(仮称) 横須賀火力発電所新 1・2 号機建設計画環境影響評価準備書
及び条例環境影響評価準備書に対する関係市長の環境の保全の見地か
らの意見について (回答)

平成 30 年 4 月 20 日付け環計第 1041 号で照会のあった標記の件について、下記のとおり
回答いたします。

記

1 総括事項

- (1) 本計画は、石炭を燃料とすることから、温室効果ガスのみならず大気質、水質、廃棄物などによる環境への影響が懸念されている。事業者は、このことに加え、石炭火力に対する国内外の状況を十分に認識し、事業の実施にあたっては、環境影響評価準備書に記載されている環境保全措置を確実に実行することはもとより、環境保全に関する利用可能な最良の技術を継続的に活用することが必要である。特に、今後の国のエネルギー政策や国内外の地球温暖化対策に係る動向を注視して引き続き検討を行い、地域の不安や懸念を払拭し、信頼と理解が得られるよう、より一層の環境影響の低減に努めること。
- (2) 本市との間で締結している公害防止協定を見直し、地域や地球環境への環境影響の低減と環境保全の取り組み等を加えた環境保全協定として締結すること。

2 個別事項

(1) 大気質

- ア 石炭燃焼に伴う排出ガスの処理設備は、利用可能な最良の技術を導入するとともに適切な維持管理を行い、より一層の環境負荷の低減に努めること。
- イ 石炭及び石炭灰の事業所内での搬送を密閉式で行うとしているが、船舶からの積み下ろしを含めた搬送方法を概要図の記載等によりわかりやすく説明すること。

(2) 騒音・振動・低周波音

石炭の搬入を行う小型内航船は停泊時メインエンジンを停止しているが、停泊

時における発電機及び入出港時のメインエンジンからの騒音・低周波音について説明すること。

(3) 水質

プラント排水処理設備は利用可能な最良の技術を導入するとともに適切な維持管理を行い、より一層の環境負荷の低減に努めること。また、プラント排水に含まれる重金属等について説明すること。

(4) 景観

施設の色彩や緑地の整備について本市と引き続き協議し、本市の海の玄関口にふさわしい景観となるよう整備すること。

(5) 人と自然との触れ合いの活動の場

新たに発電所構内南側に整備される緑地は、隣接するくりはま花の国等と連携して、地域の活性化や人と自然の触れ合いの場としての利用等を検討すること。

(6) 廃棄物等

工事の実施期間及び施設稼働時に発生する廃棄物は有効利用に努め、可能な限り最終処分量を削減すること。

(7) 温室効果ガス等

ア 発電設備は導入時点で利用可能な最良の技術を導入するとともに適切な維持管理を行い、温室効果ガス排出量を抑制すること。

イ 本事業における火力発電設備は多量の温室効果ガスを長期にわたり排出することから、事業者としての責任と自覚を持ち、地域の住民や事業者等と協力、連携することを視野に入れながら、二酸化炭素の吸収源となる森林や海洋を再生、保全するための活動など温室効果ガス排出量削減の取り組みを実施すること。また、事業所内の設備の省エネルギー化や再生可能エネルギーの積極的な導入を推進すること。

(8) その他

地域の住民や事業者等の環境教育・環境学習の場として、発電設備や発電所内に整備する緑地を活用するなど、地域の環境保全活動への取り組みを積極的に実施すること。